

北海道浮魚ニュース

平成 26(2014)年度 7 号

2014 年 6 月 30 日

道総研 釧路水産試験場

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/index.htm>

◎道東太平洋マサバ・マイワシ漁期前調査結果

北辰丸(釧路水産試験場調査船)によって行われたマサバ・マイワシ漁期前調査の結果をお知らせします。

調査期間

2014 年 6 月 19 日～6 月 27 日

調査海域および調査点

道東～三陸沖合太平洋海域
(北緯 39 度 00 分～42 度 30 分、
東経 143 度 00 分～147 度 30 分
: 親潮系冷水域および黒潮系暖水域)における 8 調査点 (図 1)。

調査方法

10 種類の日合 (22・25mm :
30 間切り各 1 反、29・37mm :
30 間切り各 4 反、48mm : 60 間
切り 2 反、55・63・72・82mm :
60 間切り各 1 反、182mm : 60 間
切り 1 5 反) の流し網を用いた
漁獲試験。

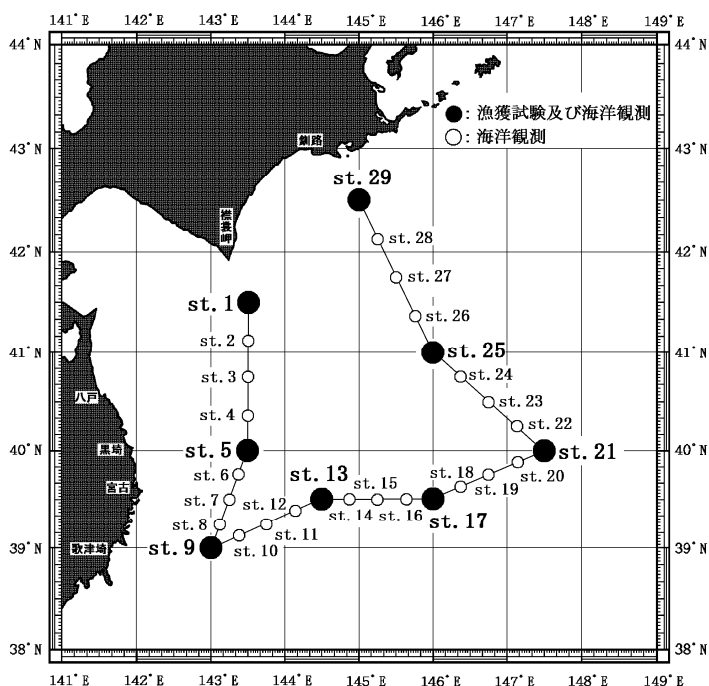


図1 漁獲試験調査点

調査結果

- ① 漁獲試験を行った 8 調査点の表面水温は 12.3～22.4℃ (前年 : 10.8～20.0℃)、50m 層は 1.2～15.1℃ (前年 : 1.3～10.9℃)、100m 層水温は 1.3～12.9℃ (前年 : 1.4～9.5℃) でした (表 1)。

表1 水温および魚種別採集尾数

st.	1	5	9	13	17	21	25	29	合計
表面水温(°C)	12.3	14.4	22.4	13.4	20.9	15.8	20.2	14.2	
50m水温(°C)	3.8	2.0	15.1	2.3	13.5	3.2	11.8	1.2	
100m水温(°C)	1.3	1.5	12.9	3.9	10.8	2.5	9.7	1.3	
サバ類	1,660	741	198	1,049	84	313	102	538	4,685
マイワシ	829	759	22	1,551	1	1,205		2,262	6,629
カタクチイワシ	30	1		1				2	34
サンマ				19				14	33
スルメイカ	9	1	7	1	2	1	28		49
アカイカ					10				10

② 調査点別の魚種別漁獲尾数（表1）および流し網調査1回当たりの漁獲尾数（CPUE）の経年変化（図2、4、6、8）ならびに漁獲試験で採集された漁獲物の体長組成（図3、5、7、9）は以下のとおりです。

・サバ類(マサバ、ゴマサバ)

8 調査点にて、合計 4,685 尾漁獲されました(表1)。

CPUE は 585.6 尾/回で、前年の 407.4 尾/回を上回り 1994 年以降では最も高い値を示しました(図2)。

全国の資源評価によれば、マサバは中水準で、ゴマサバは高水準にあるものと評価されています。

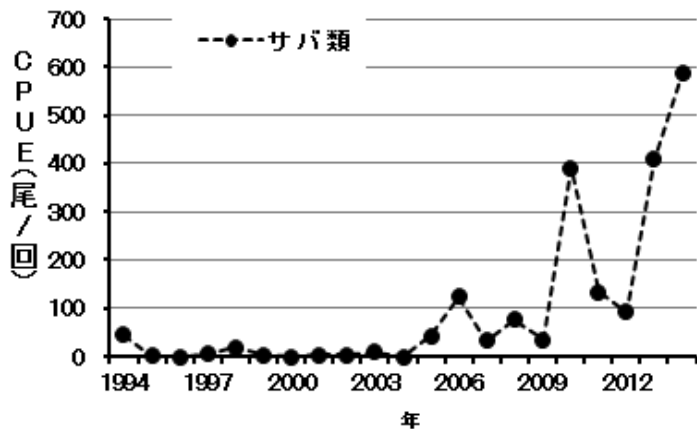


図2 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化

魚体は尾又長 18~42cm 台で、23cm 前後の個体が主体で、次いで 30cm 前後、35cm 前後の順(図3)で、前年(主体: 26~32cm 台)より小型の個体が多く見られました。

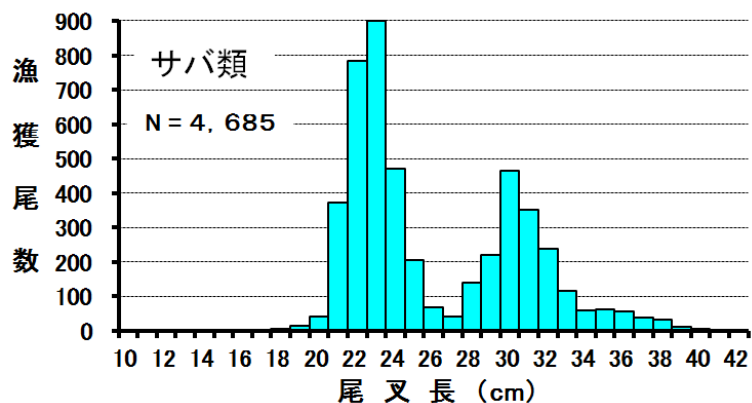


図3 サバ類の漁獲物体長組成

・マイワシ

7 調査点にて、合計 6,629 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 828.6 尾／回で、前年の 1,992.4 尾／回を下回りましたが、1994 年以降では前年に次ぐ高い値を示しました（図 4）。

全国の資源評価によれば、資源水準は中位の状態にあるものと評価されています。

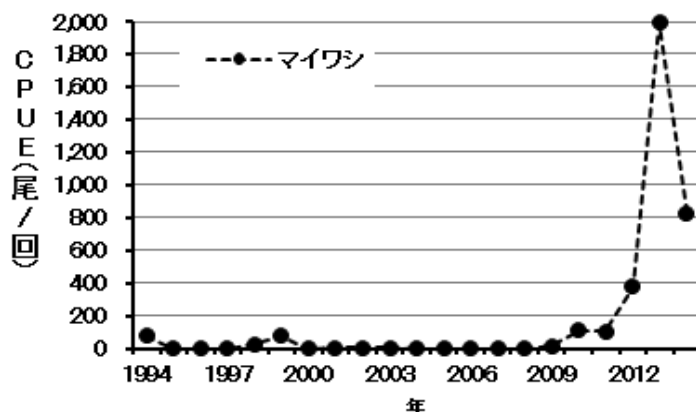


図4 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)経年変化

魚体は体長 11.0～22.0cm 台にあり、20.5cm 台の個体が主体で、次いで 18.0cm 前後の順（図 5）で、前年（主体：20.0cm 台）と同様でした。

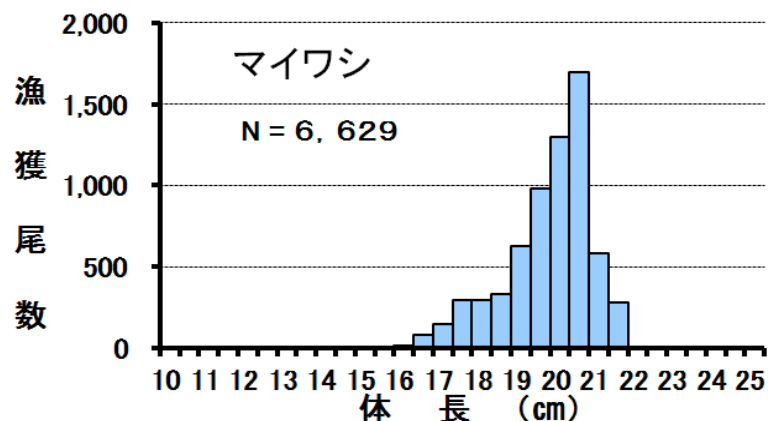


図5 マイワシの漁獲物体長組成

・カタクチイワシ

4 調査点にて、合計 34 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 4.3 尾／回で、前年の 8.0 尾／回を下回り、1994 年以降では最も低い値を示しました（図 6）。

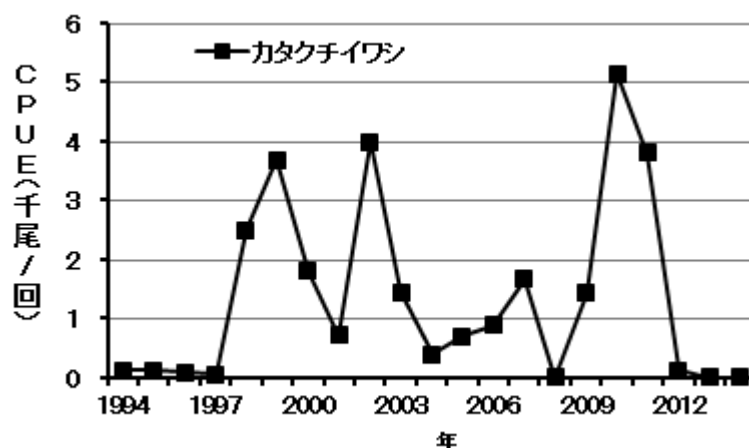


図6 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化

魚体は体長 11.5～14.5cm 台にあり、13.0cm 台の個体が主体で（図 7）、前年（主体：13.0cm 台）と同様の組成でした。

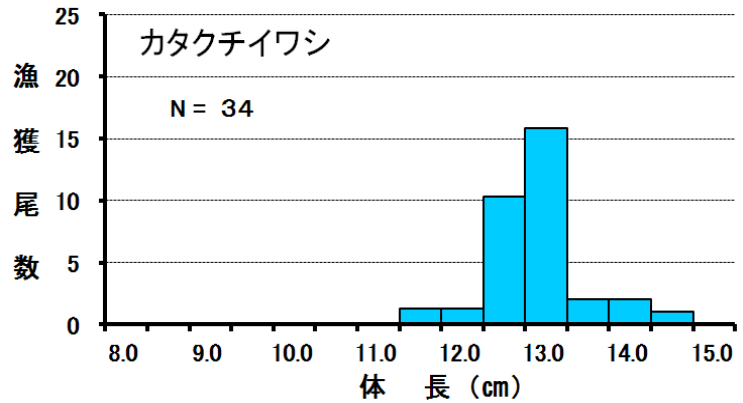


図7 カタクチイワシの漁獲物体長組成

・サンマ

2 調査点で、合計 33 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 4.1 尾／回で、前年の 21.8 尾／回を下回りました。1994 年以降では 5 番目に低い値でした（図 8）。

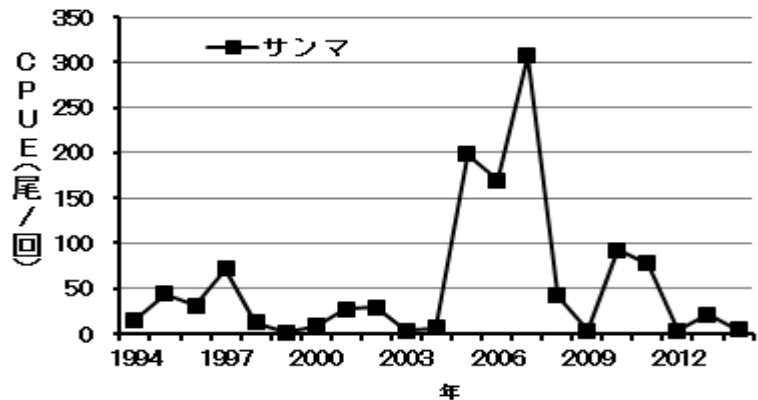


図8 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化

魚体は肉体長 20cm 前後と 27～31cm 台で、29cm 台の個体が主体でした（図 9）。前年（主体 29～30cm）より小型の個体が見られました。

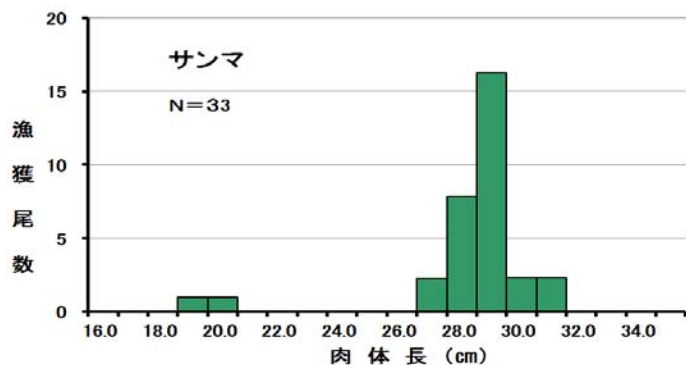


図9 サンマの漁獲物肉体長組成

◎ 7 月 30～31 日に、独立行政法人中央水産研究所（横浜市金沢区福浦）で長期漁海況予報会議が開催され、今回の調査結果を含めた各機関の資料を基に、漁況予報が発表される予定です。

（道総研 釧路水産試験場 調査研究部

直通電話：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）